

地域環境の保全

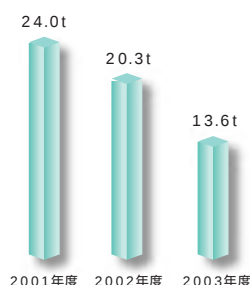
大気汚染防止

設備の適切な維持管理、定期的な点検を通し、法律や条例等の規制値の遵守と大気汚染物質の排出削減に努めています。

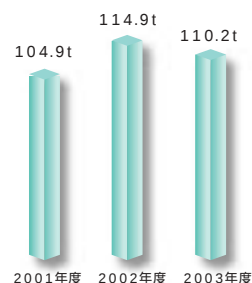
2003年度も大気関係の法規制値超過はありませんでした。

SOx排出量は、ボイラの燃料に重油を使用していたものを、都市ガスへの燃料転換を実施したことにより削減できました。

SOx排出量の推移



NOx排出量の推移



COD排出量の推移



水質汚濁防止

各生産事業所では、その地域での条例、協定値などよりさらに厳しい自主管理基準値を設けて管理を行っており、全ての項目で規制値をクリアしています。

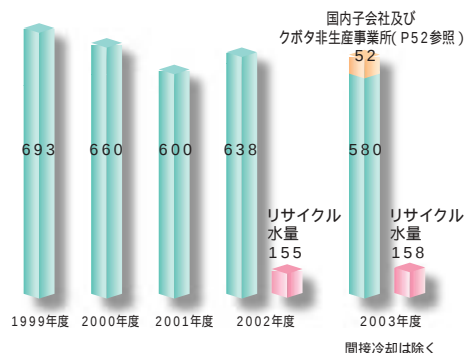
CODの排出量は、2002年度に比べ約4%低減しました。

水使用量の削減

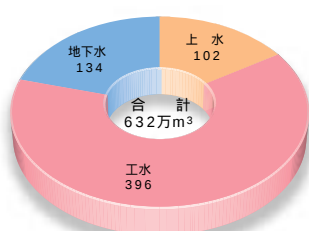
水資源の確保・環境負荷低減の立場から生活排水・工程排水の再利用化に努めています。2003年度の水使用量は、昨年度と同レベルです。

2004年度より上水の削減目標値を設定し、さらに低減に努めます。

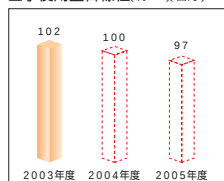
水使用量の推移(万m³)



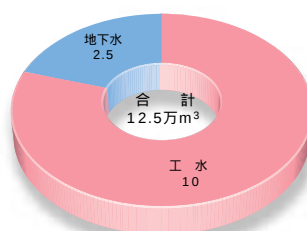
国内水使用量の内訳



上水使用量目標値(万m³×国内)



海外水使用量の内訳



雨水で水道使用量を削減(本社ビル)

●節水量 11,000m³/年 ●経費削減 220万円/年

膜を使った中水道設備で雨水や厨房排水を処理、トイレの洗浄や植木の散水に利用しています。

●厨房排水
●手洗い排水
●洗濯排水
●空調排水
●雨水
●湧き水

中水道設備

●トイレ洗浄水
(手洗い用は含まず)
●植木の散水



本社敷地内にある膜を使った中水道設備

地下水汚染管理状況

トリクロロエチレンについては、現在1事業所(浪速分工場)で使用しており、2004年度全廃に向けた取り組みに努めています。

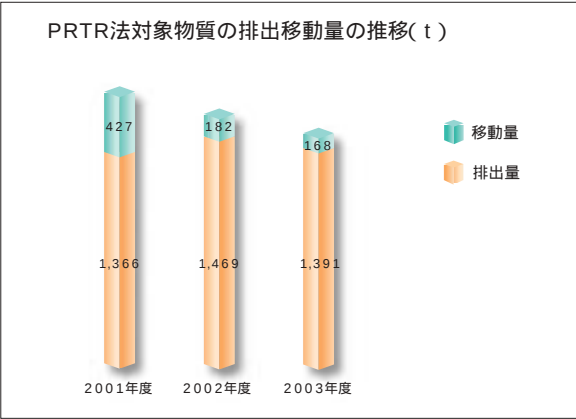
事業所名	使用物質名	年間使用量(t)	分析項目	環境基準値(mg/ℓ)	測定値(mg/ℓ)
浪速	トリクロロエチレン	7.54	トリクロロエチレン	0.03	不検出<0.002
			テトラクロロエチレン	0.01	不検出<0.0005
			1,1,1-トリクロロエタン	1	不検出<0.0005



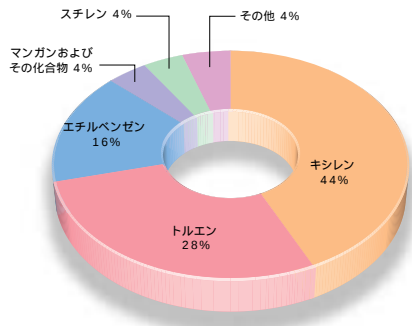
観測井戸

化学物質管理

排出移動量の総量は、前年度比5.5%削減しました。今後は、当社の排出移動量の約90%を占めているキシレン、トルエン等のVOC(揮発性有機化合物)の排出量削減を重点的に推進していきます。



2003年度 物質別排出移動量の割合



2003年度 PRTR集計結果(取扱量1トン/年以上) (単位:kg/年、ダイオキシン類はmg-TEQ/年)

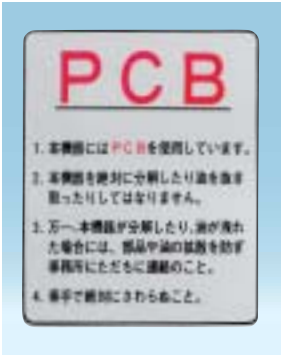
政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大 気	公共用水域	土 壌	自社埋立	下水道	場外移動
1	亜鉛の水溶性化合物	0	45.1	0	0	14.0	11.9
9	アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	0	0	0	0	0	382.0
16	2-アミノエタノール	0	0	0	0	0	11,059.5
29	ビスフェノールA	0	0	0	0	0	0
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	0	0	0	0	0	2,360.2
40	エチルベンゼン	249,593.9	0	0	0	0	3,564.0
43	エチレングリコール	0	0	0	0	0	1,393.0
63	キシレン	652,300.2	0	0	0	0	23,417.5
68	クロム及び3価クロム化合物	0	0	0	0	0	27,048.1
69	6価クロム化合物	0	0	0	0	0	567.5
100	コバルト及びその化合物	0	0	0	0	0	213.0
132	HCFC-141b	191.0	0	0	0	0	660.0
145	塩化メチレン	1,102.7	0	0	0	0.7	0
176	有機スズ化合物	15.0	0	0	0	0	38.4
177	スチレン	63,737.7	0	0	0	0	0
179	ダイオキシン類	0.0045	0	0	0	0	0.66
211	トリクロロエチレン	3,521.0	0	0	0	0	3,944.0
224	1,3,5-トリメチルベンゼン	9,542.1	0	0	0	0	74.0
227	トルエン	411,360.2	0	0	0	0	20,959.3
230	鉛及びその化合物	38.6	0	0	0	0	3,143.5
231	ニッケル	4.1	0	0	0	0	92.7
266	フェノール	0	0	0	0	0	0
270	フタル酸ジ-n-ブチル	0	0	0	0	0	128.0
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0	0	0	0	0	576.3
304	ほう素及びその化合物	0	0	0	0	0	2,173.0
309	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	0	0	0	0	0	10.0
311	マンガン及びその化合物	0	0	0	0	0	66,386.8
312	無水フタル酸	4.0	0	0	0	0	0
346	モリブデン及びその化合物	0	0	0	0	0	0
合 計		1,391,410.5	45.1	0	0	14.7	168,203.0

集計対象[クボタ国内生産事業所]+[子会社国内生産事業所]

PCB使用電気機器の管理状況

PCB使用電気機器の管理については、今後も厳重な保管を継続すると共にPCB特別措置法に対応し、使用中の機器について2005年度までに全廃し、無害化処理については、2015年を目標としています。

	保有事業所・会社数	高圧機器		
		使用中	保管中	合 計
クボタ	17	129	626	755
子会社(国内)	3	0	7	7
合 計	2	129	633	762



使用製品添付ラベル



PCB保管庫

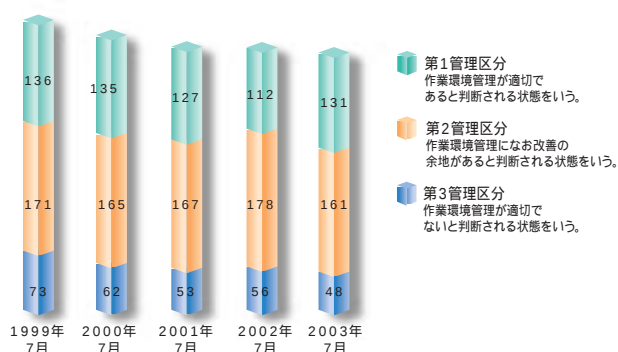
作業環境改善

職場における安全と従業員の健康、さらには地域環境の汚染を防止するため、騒音・化学物質管理を中心に、常に作業環境の点検と改善を行っています。

騒音

騒音の第3管理区分職場は2002年7月と比較して8職場減少しています。今後も第3管理区分職場ゼロを目指して、残りの職場についても改善していきます。

騒音職場数推移

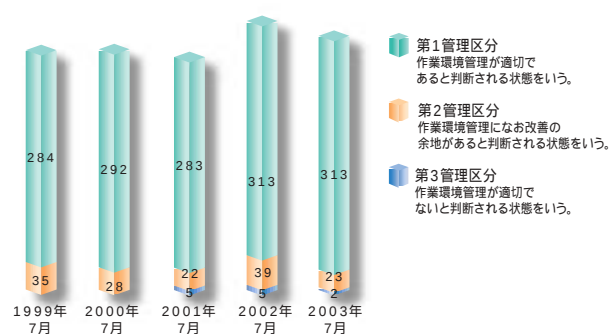


クボタ国内生産事業所のデータ

有害物質

有害物質取扱職場(粉じん・有機溶剤・特化物・鉛取扱職場)については、1998年以降第3管理区分職場ゼロを継続していましたが、2003年7月現在2職場あります。直ちに改善策を検討し、計画的改善を図るとともに、法定管理濃度より厳しい自主管理濃度を設定し、更なる快適職場の創造に向けた取り組みに努めていきます。

有害物質(粉じん・有機溶剤・特化物・鉛)職場数推移



クボタ国内生産事業所のデータ

粉じん職場重点パトロールの実施

2003年9月及び2004年2月の2回、粉じん職場の改善を重点に、粉じんパトロールを実施しました。主に鋳物関係の事業所を中心に、局所排気装置(集塵機)の設備管理状況をチェックし、不具合点の改善を行っています。



自然環境保全

各事業所では、工場緑化、ビオトープなど自然環境の造成に努めています。

ビオトープとは

生物を意味する「bio」と場所を意味する「tope」を合成したドイツ語で野生生物が生息できる空間のことです。



京葉工場(船橋)



阪神工場(武庫川)